

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 12日

事業所名 サンクスラボ・アフタースクール佐賀

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	○			訓練室等、用途に応じたスペースを区切ることができており安心して利用できる環境を整備している。	今後も安心且つ効果的な環境を整備していく。
	2 職員の配置数は適切である	○			個別の活動を工夫して療育を提供できるようにしている。	法令に沿った職員配置はできているが、より良い療育を提供するために職員配置を検討し採用を進めていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	○			スロープや手すり等があり段差も少なくトイレにおいても介助できるスペースがある。	今後も必要に応じて設備等のバリアフリー化に努めていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標 設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			行動計画や支援計画など職員全体で取り組んでおり振り返りや再検討まで実施している。	今後も継続して実施していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート 調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者等向け評価表を活用し不備等の改善を実行している。	今後も保護者等向け評価表等を実施し業務改善に努めていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	○			ホームページにて公開している。	今後も適切に情報を公開していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務 改善につなげている			○	社内による評価を実施している。	第三者による外部評価の実施を検討し業務改善につなげていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を 確保している	○			長期休暇中などの繁忙な時期を除き月1回のペースで研修を実施している。	より良い支援が提供できるよう、今後も研修を企画し実行していく。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等 デイサービス計画を作成している	○			定期的な面談を実施しアセスメント情報を基に計画を作成している。	今後もご家族やご本人のニーズや目標などを共有した上で計画を作成していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、 標準化されたアセスメントツールを使用している	○			ご家族に協力いただき専門機関による評価を参考にしている。	今後もご家族や専門機関と情報を共有しながら事業所内のアセスメントも実行していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			日々の活動から年間の活動まで担当の発案を基に全員で検討している。	今後も継続して実施していく。
適切な支援の 提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	○			一人ひとりに合ったプログラムを設定し活動を実施している。	今後も継続して実施していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	○			利用形態に応じて有効と思われる活動を設定し実施している。	今後も継続して実施していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個々の特性や目標等に応じて計画を作成し活動を実施している。	今後も継続して実施していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その 日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝礼時や支援開始前に提供する支援の確認を実施している。	今後も継続して実施していく。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終礼時において支援の振り返りを実施している。	今後も継続して実施していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			全体的な支援記録だけでなく活動単位ごとの記録を実施し検証や改善につなげている。	日々の検証を継続していき、より良い支援につなげていくようアップデートしていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的にモニタリングを実施しており、毎回、見直しをするようにしている。	今後も継続して実施していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			ガイドラインにおける基本活動を個別のニーズや目標等に応じて実施している。	今後も継続して実施していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者及び担当者が会議に参加している。	今後も継続して実施していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校やご家族と連絡調整を行い、円滑な情報共有を実施している。	より良い療育が提供できるよう学校との情報共有を進めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	※対象児童がいない	対象児童があった際は連絡体制を整えられるよう検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			対象児童があった際は必ず情報共有を実施し利用開始するようにしている。	今後も継続して実施していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○	移行に際して情報を整理し情報提供できるよう準備している。ご家族等の意向に沿って情報提供するようにしている。	今後も情報が提供できるよう整備するように努め、ご家族等からの意向に沿って会議の出席や情報提供等を実施していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○	必要に応じて専門機関等との情報共有を実施している。	より良い療育を進められるよう、幅広い連携を進めていけるよう努めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	感染症等の社会情勢を確認し進めるようにしている。	個別のスキルアップを重視していき、段階的に交流など般化する機会を作っていくよう検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		協議会等の活動状況を確認しつつ、積極的に参加できるよう検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時や電話等にて情報の共有ができており、共通理解ができていく。	現状の情報共有を継続しつつ、面談等の対応も積極的に発信し、より良い情報共有の場を設けていけるよう努めていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	定期面談時において療育の悩みや将来の生活に向けた相談支援等を実施している。	課題の発信があった際の際のみの対応になっているため、幅広く対応できるように努めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			見学时、契約時、面談時等において説明を実施している。	今後も継続して実施していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			ご家族より相談があった際は面談等を通して相談等を実施している。	今後も継続して実施していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		ご家族のニーズ等を確認し実施を検討していく。

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情等はないが日頃から些細なことでも相談等を受け付け対応するようにしている。	今後も継続して実施していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			会社及び事業所の会報、Instagram等で情報を発信している。	今後も継続して実施していく。
	35	個人情報に十分注意している	○			書類等は鍵付きのロッカーで管理しており、写真等の使用はご家族の意向を確認して取り扱っている。	今後も継続して実施していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚的な情報を準備し、わかりやすい情報伝達ができるようにしている。	今後も継続して実施していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	ご近所の方と積極的に挨拶や会話をするようにしている。	社会情勢を判断しながら地域交流を進めていけるよう検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各マニュアルを整備しており、いつでも閲覧できるように設定できている。	今後もより良い情報共有ができるよう、説明する機会やわかりやすい環境設定を進めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			災害等を想定した訓練を計画的に実施している。	非常災害に備え、今以上に対応できるよう環境を整え、訓練の実施を継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			毎年、全職員が研修を受講することができる。	今後も継続して実施していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○	※対象児童がいない	身体拘束が必要と判断されるようなことがある際には、身体拘束における3要素を基に検討し、ご家族の同意を得た上で、計画にも位置づけする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	契約時に食物アレルギーの聞き取りを実施している。	医師の指示所に沿った対応が必要だという範囲の話はないが、今まで通り食物アレルギー等に関しては提供しないように留意していく。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			朝礼及び終礼時においてヒヤリハット等の確認を実施している。	今後も継続して実施していき、些細なことでも気づいて対応できるような体制を整備していく。	